

令和2年度入学者選抜試験問題（AO入試）
「小論文（地域学部地域学科人間形成コース）」出題意図

[I] 人間形成コースは、設問[I]においては、パキスタンで女性への教育の必要性や平和を訴える活動を続けたことで武装勢力タリバンから銃撃され、のちにノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイ著『I am Malala（訳書は「わたしはマララ」）』を出題文とした。学修上必須とされる英語の基礎的読解力(問1)に加えて、国民生活の実態や政治情勢などパキスタン特有の構造的な問題も踏まえながら、学校教育の普遍的価値について思考をめぐらせる総合的考察力(問2)を問うこととした。出題文では、苦学の経験により知識の重要性を理解し、全ての子どもが学ぶことができる学校の設立を夢見たマララの父親と、学校に通学できる立場にあったにも関わらず教科書を買ってお菓子を購入してしまい、学校をやめてしまったことを父親との出会いによって後悔する母親のエピソードが語られている。「生きる主体」としての当事者の置かれている状況をふまえつつ、各事例の相互の関連性を捉えていく力を試すことが可能であると考え。加えて、出題文は筆者の少女時代の手記に基づいており、難解な専門用語等は一切なく、受験生には適切な内容として選択された。

問1【和訳解答例】

長い間ずっと、私の父は学校をつくる夢を持っていたが、家族のツテやお金がないので、この夢を実現するのは極めて難しかった。

問2【採点基準】

「どのような意味を持つのか」と問うことにより、日本とは異なる生活環境において、出題文中の当事者がどのような状況に置かれているのか、構造的な問題として思いをめぐらせる必要性を持たせている。したがって、単に出題文で示される事例を並べて単線的に学校教育の重要性に帰結させた回答の点数は低く、「生きる主体」としての当事者を念頭に各事例の相互の関連性を踏まえた回答は高くする。

[II] 問1では学力と評価についての論述を読ませることによって、評価という手段の目的化とその結果生じる影響について、日本語による基礎的読解力を問うた。問2では、問1を踏まえることで、学ぶことの意義や意味について改めて考察させることで、問1と同様に、基礎的な読解力とともに、総合的な考察力、文章の表現能力について問うた。また、受験生にとって学びとは何かについて考えさせることで、受験生の学びに対する潜在的可能性を評価することが可能になると考えられ、AO入試としては最適な課題として選択された。

問1【模範解答例】

教師や試験が求める言動だけを一時的にやってみせる「態度」が装われることで、教師や上司が求めるように「自ら」動き、他者と「コミュニケーション」して見せるだけの「やらせ」を行うような人間になりかねない。(99字)

問2【採点基準】

- ・出題文の文脈(新学力観(関心・意欲・態度、主体性や意欲という学力の側面)に触れているか)に即して解答することができるかを問う(基礎的な読解力)
- ・出題文中で指摘されている問題をもとに、学びとは何かについて考察し、論じることができるかを問う(考察力・表現力)
- ・自身の学びについて具体的かつ分析的に論述ができているかを問う(学びに対する潜在的可能性)